#### 〈第63号〉 2016年7月28日発行

# 国学家流物第二二人





#### 船橋市国際交流協会平成28年度第1回総会

船橋市国際交流協会平成28年度第1回総会が平成28年5月11日(水)船橋市商工会議所内ホールにて・松戸徹船橋市長を来賓に迎え、43名が出席して開催された。

外国人の増加が続くなかで、多文化共生・世界に開かれた地域づくりのための活動の充実を協会の使命として続けてきており、その平成27年度の活動報告、及び平成28年度の活動計画などの審議がおこなわれた。

平成27年度活動では、各委員会の活動に加え、協会事業のアンデルセン公園での「インターナショナルフェスティバル2015」が5千人あまりの来場者を迎え成功裏に行われたこと、新しい活動の「国際交流サロン」が28年1月にスタートしたことなどが報告された。

平成28年度の活動計画では、各委員会は従来の活動を継続しておこなうこと、国際交流サロンを定着さ

せていくこと、新しく外国語教室と青年部会の発足に 向けて取り組むこと、加えて、帰国・外国人児童生徒 支援体制整備事業を実施することが承認された。

これらの活動と関連する平成27年度決算、平成28 年度予算案が上程され、異議なく承認された。

4期にわたって会長職にあった田村泰一氏の退任、新しく宮慶助氏の会長就任の人事案が上程され承認された。

地球っ子委員会を規約第13条に追加する規約の改 定が承認された。

今年は、ヘイワード市との姉妹都市提携30周年に あたり、市の周年事業と共同で記念行事を開催するこ とが承認された。

出席者より、より多くの市民が参加する活動を増や して欲しいとの要請がなされ閉会した。

平成28年度 役員一覧		
役 職(担当)	氏	名
会長(会務総括/ 改善計画コーディネート)	宮	慶助
副会長(文化交流/青年部会立ち上げ)	嘉規	洋
副会長 (広報/会員増強)	荒谷	晃行
副会長(理解セミナー/交流サロン/ 会員増強	小原	智
副会長(総務/事務局/日本語/相談窓口/ 地球っ子/会員増強事務)	日野	隆

	委 員 会	委 員 長
	総務委員会/ 事務局長	片桐 卓
1	広報委員会	廣田 俊男
	日本語教室委員会	松川 京子
	外国人相談窓口委員会	塚原 章魏
	地球っ子委員会	浦和かほる
	国際理解セミナー委員会	今村 俊一
	文化交流委員会	田辺 厚志
	会員増強委員会	田辺 厚志

#### 協会会長就任にあたって 宮 慶助

この度、会長に就任した宮慶助です。 会社を退職して、はてできた自由時 間をどうしたものか、何か資格でも取 ろうかしらと思っていたところ「日本



語教師」という文字が目について、早速「日本語教師 養成学校」へ行きました。1年あまりで資格を取り、 東京の「日本語学校」の非常勤講師になりました。

その頃並行して、船橋市の国際親善ボランティアに応募して、公民館などで「日本語教室」のボランティアを始めました。

平成19年に日本語教室が国際交流協会に移ることになったのを機会に、協会に入会し、平成22年から副会長を務めてきました。

国際交流協会は60あまりの団体会員により基盤を 支えていただき、協会のいろいろの活動は500名余の 個人会員により支えられています。

皆さんが協会の会員になった動機は、社会貢献・やりがい・いきがい・チャレンジ・刺激などを求めてなど様々であろうと思いますが、これらの皆さんの思いを、楽しく、気軽に、気兼ねなくできるような協会でありたいと思っています。

そのような協会であるためには、協会の財政管理、いろいろな会議の運営、会員の状況把握などの基礎がしっかりしていなければなりません。協会の基礎がしっかりしていて初めて、楽しく協会の活動を続けることができます。この基礎を支える仕事は地味ではありますが、欠くことができない大事なことです。

協会のしっかりした基礎を構築し、楽しくやりがい を求めることのできる協会にすべく努めたいと願って います。

会員の皆様、力を合わせ頑張っていきましょう。

#### 会長退任にあたって 田村泰一

皆さんお元気でご活躍のことと思います。私は去る5月11日(水)開催の年次総会をもって、4期8年務めました会長職を辞し、宮副会長に受継いで戴きました。



回顧しますと想い出は尽きませんが、協会創立以来 激動の中の8年間でした。最も困難を伴ったのは、創立20周年を期に市の直轄事業であった「日本語教室、 外国人相談窓口、ようこそ船橋」の3事業を協会と合 併させることでした。共に長い歴史があり、「将来の 国際交流は、正に協会と直轄事業が融合して、表裏一 体となって伸ばしていかねばならない」と訴えました。 足掛け3年に及ぶ準備期間を要し、漸く20周年記念に 間に合いました。

2番目は予算も乏しいなか、25周年記念事業として 格式をもった「国際理解セミナー」が発足できたこと です。今秋には10か国目の駐日大使をお迎えします。

3番目は、長年の懸案であった「年会費改定」です。 これも何とか今年度より実施されることになり、一件 落着といったところです。

しかし、次代を担う「青少年の組織化」や「在住外国人との身近な交流」、「派遣留学生」など手つかずの案件が多数あり、今後の実現を期待しています。

いずれにせよ、協会幹部をはじめ会員の皆さん、交 流室のバックアップなど、弛まぬご支援の賜物であり、 大過なく責務を果たせたことに対し、心から厚く御礼 申し上げます。

今後は顧問・理事として在籍しますが、一会員として皆さんとご一緒に活動することを楽しみにしております。 宜しくお願いします。 ありがとうございました。

# 帰国・外国人児童生徒支援体制整備事業について 一多文化共生のまちづくり促進事業一

今年度、当協会では、多文化共生のまちづくり促進 事業「帰国・外国人児童生徒支援体制整備事業」を実 施することになりました。

当協会では、教育委員会の依頼により、市内小中学校に在籍する、日本語その他のサポートが必要な帰国・外国人児童生徒に対する、ボランティア(日本語指導協力員)を派遣しています。

また、教育委員会では、外国語対応非常勤職員及び 重点校での加配教員による指導体制の構築に長年取り 組んできています。これらの中でも、外国人指導者と 日本人指導者の効果的な活用、また指導の内容(適応 指導か通訳か、日本語指導か教科補習か)の見極め基 準など、さらに検討が必要です。

この事業の目的は、教育委員会とも連携して、帰国・ 外国人児童生徒に対する、よりよい人材活用と支援体 制を作るために検討会を開催し、対象の児童生徒に対 する支援の進捗を客観的に図るガイドラインを策定す ることです。

また、11月には「帰国・外国人児童生徒支援体制の現状とこれから(仮題)」というテーマでシンポジウムを開催する予定です。日本語支援に関心のある方、詳細は事務局までお問い合わせください。

## バス研修を楽しみました

6月29日(水)文化交流委員会が担当する、外国の 方との交わりを目的とするバス研修が開催されまし た。梅雨の真っただ中にもかかわらず暑すぎず、雨も 降らずで、40名(内外国人10名)の参加者の歓声の下、 市役所前を午前10時に出発して、先ずはサッポロビー ル千葉工場見学に向かいました。「ビールは大麦、ホッ プ、酵母から作られている」というガイドの方の説明 を聞きながら麦汁の香りのする工場を歩きました。工 場見学の締めくくりは、皆さんお待ちかねのビールの 試飲です。缶ビールの美味しいグラスへの注ぎ方を教 えてもらったりして、試飲を楽しんだ後で、工場隣接 のレストランで昼食を頂きました。

次の目的地は稲毛の浜近くにある「三陽メディアフ ラワーミュージアム」。

屋内は季節のあじさいを中心に、ジューンブライド をテーマとした展示で、屋外も"ばら"をはじめ色と りどりの花でいっぱいでした。花々の中をそぞろ歩き したり、稲毛海岸まで足を運んだりと思い思いにゆっ たりとした時間を過ごし帰途につきました。

帰りの車中では自己紹介と参加しての感想を各自述 べましたが、スタッフへの感謝の気持ちを交えて「楽

しかった。次の機会 にも是非参加した い」との声を多数聞 けました。皆さんご 苦労様でした。

広報委員 中川



-ル工場での参加者全員

## 外国人防災体験ツアーに参加して

私は普段、災害拠点病院の救急外来で看護師として 働いています。そこには日本で暮らしている外国人の 方々も受診に来られます。異国の病院では不安な気持 ちで一杯だろうと思います。そんな時に少しでも安心 を与えてあげられるよう意識していますが、短い関わ りの中で有効に対応できているとはいえないと感じて います。そんな中「災害時外国人支援サポーター講座」 を発見し、すぐに応募しました。松戸の千葉県西部防 災センターに行き、防災の基礎知識を学ぶことは必要 と思いましたが、戸定公園へなぜ行くのか戸惑いまし た。しかし、外国人とサポーターの皆さんと過ごす時 間、それがまさに重要なのだと感じました。サポーター

として防災に対する知識、外国の方々に対してのコ ミュニケーション技術などを身につける事は大切です が、サポートしていくチームの皆さんとの信頼関係を 築いていく事も大切な事だと今回の研修を通じて感じ ました。研修を通じ、サポーターとしての信頼を得ら れるようになり、そして発災時、被災外国人の方から

頼られるサポーター の一員となれるよう に学んでいきたいと 思います。

サポーター 長島一貴



西部防災センターにて

# ホームステイ受け入れ家庭の ーヘイワード市からの高校

ヘイワード市との姉妹都市提携30周年を記念して、 ヘイワード市のモロー高校から高校生が船橋市を訪れ ます。ヘイワード市は、湾岸都市で、大都市サンフラ ンシスコのベッドタウンとして人口の増加が続いてい るなど、都市の形態や地理的条件が船橋市によく似た 1. 期日:平成28年10月21日(金)~10月28日(金)

船橋市国際交流協会では、これらの高校生のホーム ステイ受け入れ家庭の募集を右記によりご案内しま

ホームステイは、草の根国際交流の最良の場です。 普段着のおもてなしで結構です。ヘイワード市の友人 たちを家庭に受け入れ、お互いに異文化体験を楽しん でみませんか。

#### 一記一

- 7泊8日
- 2. 受け入れ内容:朝食及び夕食の提供、送迎
- 3. 言語:英語(簡単な英語で充分です。)
- 4. 募集家庭数など下記にお問合せ下さい。 船橋市姉妹·友好都市周年事業実行委員会 (市国際交流室内) ☎ 047-436-2083

## 「中国語ママ会」を訪ねました

低学齢期の子どもを持つ在住中国人のお母さんたちが子どもに中国語を教える教室を自主的に始めたと知り、訪ねてみました。教室は、東部公民館の一室で、毎週土曜日の午後開かれています。今年の4月に始まったそうです。

「子どもたちが、成長するにつれ日本語に馴染み、活動範囲を広げていくこと自体は好ましいことです。でも、親たちが持っている中国の文化や価値観などを自ら理解する力や能力が一向に上達していかないことを痛感しました。子供たちには、いろんな角度から正しくものを見る力を持ってほしいです。その一つに、中国的な見方を持てる環境にあるはずなのに、その機会を失ってしまうのは残念です。まずは中国語を失ってしまうのは残念です。まずは中国語を上と理解できることが必要だと思いました。正しい中国語を楽しく習得させる場を作ろうと近くのお母さんたちと活動を始めました。」と発起人の一人からの話でした。

話を聞いて、このようにして育った二世、三世たちが、やがて我々の地域社会を、インターナショナルな 共生のまちへと発展させていってくれるのだろうと期 待が広がりました。中国の人たちだけでなく、多くの 国籍の人たちで、同じような活動がもっともっと拡 がっていくといいですね。

訪問した時は、一人のお母さんが、果物や野菜の絵のカードを示しながら、名前やその漢字の発音、色や食べ方などを問いかけ、同席のお母さんたちも一緒に授業に参加し、楽しそうに進められていました。親たちが交代で、教える役割を持つと同時に、授業にも参加することで、子どもたちも集中できているようです。親たちも、子どもの成長を確認でき、より適切な教え方への話し合いも増えているそうです。

始めたばかりで、まだ組織やリーダーを決めようという話はないが、しばらく続けてみたいと言っていま

した。場所の安定確保ができ、発展していくことを期待しながら教室を後にしました。

広報委員 廣田

授業風景

### Did you hear?

知ってた?

Dialog in the Dark If you want to imagine what it is like to be blind, you only have close your eyes. We truly can't understand what it is like to be blind.

At the Dialog in the Dark which is a small theme park located in Gaien Mae in Tokyo we can try the daily life as a blind person.

We will be guided by blind staff. In the Dark, birds are singing and the wind brings the fragrance of trees and when we cross over a small bridge above a small river, we must rely on our blind guide. We can't see anything and so our senses are sharper.

We can taste a piece of cake by the help of our blind guide. We can discover a new taste.

At the first meeting, we cannot see other participants and we don't know each other, but when we talk, we can speak smoothly by helping each other. In the visible world and the world of the blind, we can think about each other.

Dialog in the Dark is the brainchild of a German Doctor of Philosophy, Andreas Heinecke. There are 39 theme parks located in 39 countries throughout the world.

While I was wondering around in the unfamiliar world, I was thinking what things I could see here and how I could grasp them in any environment.

Information: **2** 03-3479-9683

暗闇の中のダイアログ 目が見えないってどんなことなのか、見えるのが当たり前の人が知りたくても、ただ目をつぶってみてもわからないことが多いですね。

東京の外苑前のダイアログインザダークという小さなテーマパークを紹介しましょう。ここでは、視覚障害のスタッフに案内してもらって、見えない日常生活を試すことができます。

真っ暗な中で、鳥がさえずり、風が木々のにおいを 運んできます。小川の小さな橋を渡る時は、目の見え ない人の誘導が頼りです。見えないだけ、ほかの感覚 が鋭くなって、助けてもらいながら食べたケーキの味 にも新しい発見がありました。参加者どうしも、初対 面でも遠慮なく助け合いながら話がはずみ、一緒に見 えない世界を経験しながら考えることができます。

ダイアログインザダークは、ドイツの哲学博士アンドレアス ハイネッケが発案して世界39ヶ国で開催されているそうです。慣れない世界をさまよいながら、見えるってどんなことだろう、人はどうやって自分のいる環境を把握するのだろうなどと考えてしまいました。

インフォメーション ☎03-3479-9683

#### あとがき

上野で「ブータン・・幸せに生きるためのヒント展」を見ました。ヒマラヤ山脈の南にあり、九州と同じ面積で人口は75万人。四季があり、未開の自然が広がる仏教の国です。

1972年に国王が Gross National Happiness(国民総幸福)を提唱して、豊かな自然と伝統文化を守りながら、ゆっくりと近代化を進めています。山岳高地で、豊かさを誇れる産業を持っている訳ではありませんが、ここでも女性は華やかな色を身に着けて、着道楽を楽しんでいます。人々が穏やかに日々を過ごし、他人のためにさりげなく何かをして差しあげた時に自己の幸せを感じるという精神文化・・・幸せってこんな所にもあるのかなぁ~。 (S. W)